

# エコアクション21

## 2020年度 環境経営レポート

(2020年4月～2021年3月)



2021年6月3日 作成

 八幡電機精工株式会社



エコアクション21<sup>®</sup>  
認証番号0001955

# I. 事業の概要

## 1. 事業所

- (1)名称 八幡電機精工株式会社 本社及び工場
- (2)所在地 〒807-0801 北九州市八幡西区大字本城2805番地
- TEL: 093-691-2331 FAX: 093-603-2556
- <http://www.yawata.co.jp>

## 2. 代表取締役社長 菊竹 浩和

## 3. 環境管理責任者氏名及びEA21事務局担当者の連絡先

- (1)責任者 環境管理責任者 取締役総務部長 栗野 泰志
- (2)担当者 EA21事務局 総務部主任 前川 恭子
- (3)連絡先 TEL: 093-691-2331 FAX: 093-603-2556

## 4. 事業内容

- (1)業 種 電気機械器具製造及び販売業

(2)主力製品

[回転機]

- ・発電機(交流発電機・高周波電動発電機)
- ・電動機(かご形モータ・直流モータ・巻線形モータ・船舶用モータ)
- ・可変速電動機(インバータモータ・VSモータ・高速スピントルモータ)
- ・制御用電動機(ACサーボモータ・DCサーボモータ・半導体装置用モータ)

[自動機械・装置]

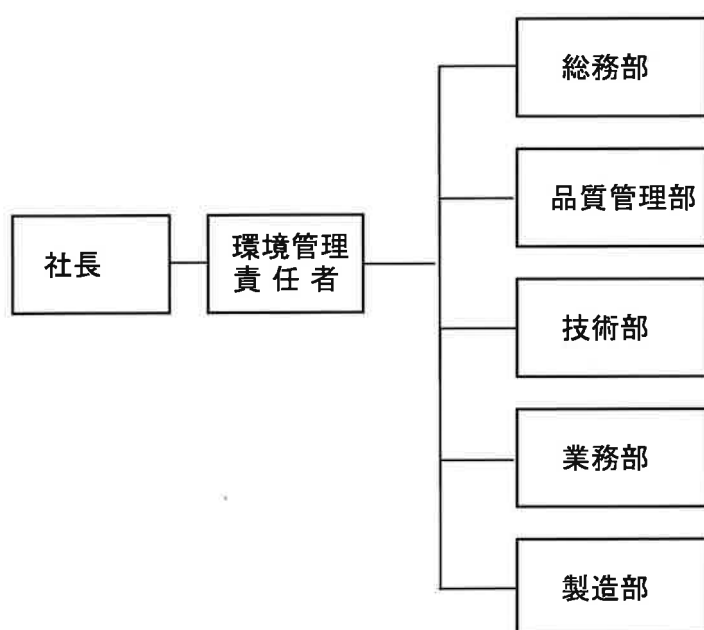
- ・発電装置(周波数変換装置・車載発電装置)



## 5. 事業規模

活動規模	単位	2018年度	2019年度	2020年度
売上高	百万円	3,640	3,058	2,584
従業員	人	176	180	172
工場床面積	m2	8,348	8,348	8,348

## 6. 組織図



※ エコアクション21の取り組み範囲は全社および全事業活動を対象にします。

## Ⅱ. 環境経営方針

# 環境経営方針

### I. 基本理念

八幡電機精工株式会社は、モータや発電機およびそれらを応用した装置製品の製造・販売の事業活動の中で、地球環境に配慮した企業となるために、次の行動指針を定め行動します。

### Ⅱ. 行動指針

1. すべての事業活動の中で省資源・省エネルギーに努め、環境負荷の軽減に努めます。  
具体的には次の5項目を全員で取り組みます。
  - ① 電力、化石燃料類の使用量を削減し、二酸化炭素排出量を抑制します。
  - ② 廃棄物の削減および分別収集により、環境負荷低減とリサイクルに努めます。
  - ③ 水使用量を削減します。
  - ④ 化学物質の使用量を削減し、環境負荷低減に努めます。
  - ⑤ 製造時の仕損削減に努めます。
2. 環境関連法規および当社が同意した各種協定を遵守します。
3. 環境方針を全職場に掲示し、すべての従業員に周知徹底します。
4. 環境教育や社内広報活動などを行い、環境保全活動の周知徹底に努めます。

2018年3月21日 改定

八幡電機精工株式会社

代表取締役社長 菊竹浩和

### Ⅲ. 環境経営目標

#### 1. 2020年度以降の目標

(1) 2020年度以降は2019年度の実績値をベースに毎年1%削減を目標とした

必須項目 (2019年度の実績値をベースとして削減する)	単位	2019年度実績	2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素排出量の削減 (電力CO2排出係数変更)	kg-CO2/年	1,183,574	1,171,738 (1%)	1,159,903 (2%)	1,148,067 (3%)
廃棄物総排出量の削減	kg/年	64,480	63,835 (1%)	63,190 (2%)	62,546 (3%)
総排水量の削減	m3/年	1,974	1,954 (1%)	1,935 (2%)	1,915 (3%)
化学物質排出量の削減	kg/年	5,160	5,108 (1%)	5,057 (2%)	5,005 (3%)
製造時の仕損削減	千円/年	4,944	4,895 (1%)	4,845 (2%)	4,796 (3%)
環境保全活動 (本社・工場周辺の清掃活動)	月当たり1回以上		月当たり1回以上	月当たり1回以上	月当たり1回以上

※二酸化炭素排出係数は過去分も含め九州電力の平成29年度の実排出係数(0.438kg-CO2/kWh)を使用しております。

### Ⅳ. 主要な環境経営活動計画の内容

#### 1. 二酸化炭素排出量の削減の取組み

##### (1) 電気使用量の削減

- ① エアコンの温度管理の強化
- ② エアコンフィルターの定期的清掃の実施
- ③ 昼休みのエアコン間引き運転
- ④ 空調設備点検表による管理
- ⑤ 昼休みの消灯
- ⑥ 省エネ型空調の導入
- ⑦ コンプレッサのエア漏れチェックおよびエア漏れ予防の推進
- ⑧ トイレ、更衣室、厨房等のこまめな消灯
- ⑨ 事務所キャピススイッチによる帰社時の消灯徹底
- ⑩ 電化製品購入時の省エネ品選択

##### (2) ガス、ガソリン、軽油使用量の削減

- ① 焼鈍炉の焼鈍日設定、まとめ焼鈍による時間の効率化
- ② アルミ溶解炉(ガス炉)の効率運転
- ③ 自動車のエコ運転実施(ガソリン、軽油)
- ④ 低燃費社用車の優先使用による燃費向上

#### 2. 廃棄物排出量の削減の取組み

##### (1) 金属クズの削減

- ① 製造工程で排出される金属クズ(鉄・銅・アルミ等)の分別収集の実施  
(また有価物として売却した金属クズについては対象外とする)

(2) 紙クズの削減

- ① 全社に紙専用BOXを設置による分別収集の実施  
(また有価物として売却した紙クズについては対象外とする)
- ② 裏紙の再利用
- ③ 両面コピーの推進
- ④ 社内資料裏紙の推進
- ⑤ 段ボールの分別収集の実施
- ⑥ コピー機の製本機能利用による複数枚コピー時の紙使用数削減

3. 総排水量の削減の取組み

(1) 節水による削減

- ① 水道メーターチェックによる水漏れの確認
- ② 水道蛇口の閉め忘れチェック
- ③ 漏水箇所の修繕
- ④ 塗装ブース等への満水警報ブザー設置

4. 化学物質排出量の削減の取組み

(1) 化学物質の削減

- ① 在庫塗料使用による塗料の廃棄量削減
- ② 洗浄液の再利用(濾過器設置)による購入量削減
- ③ 廃棄塗料の有効利用による廃棄量削減
- ④ 塗料作業者のレベルアップによる塗料使用量削減

5. 製造時の仕損削減の取組み

(1) 帳票類の有効活用による仕損工数削減

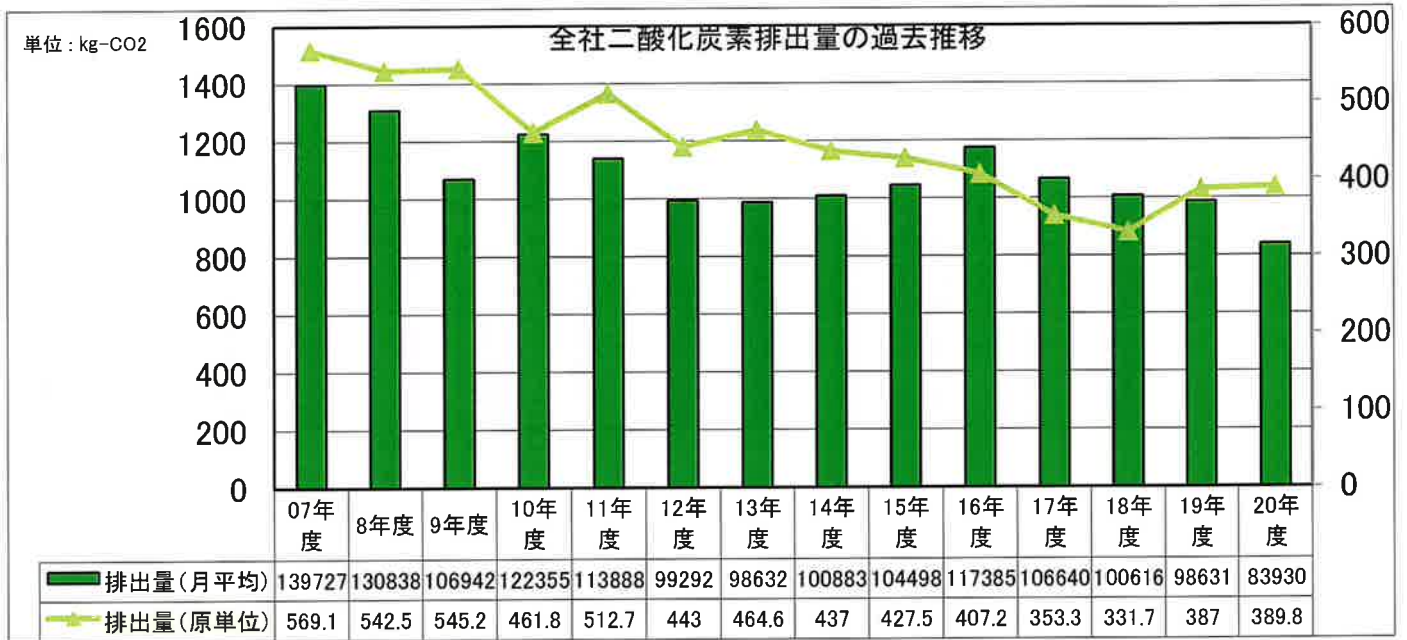
- ① 作業標準の遵守による仕損削減
- ② チェックシート等の活用による仕損削減
- ③ パトロール実施によるチェック

6. 環境保全活動の取組み

- (1) 本社、工場外周の清掃活動



## V. 環境経営目標の実績

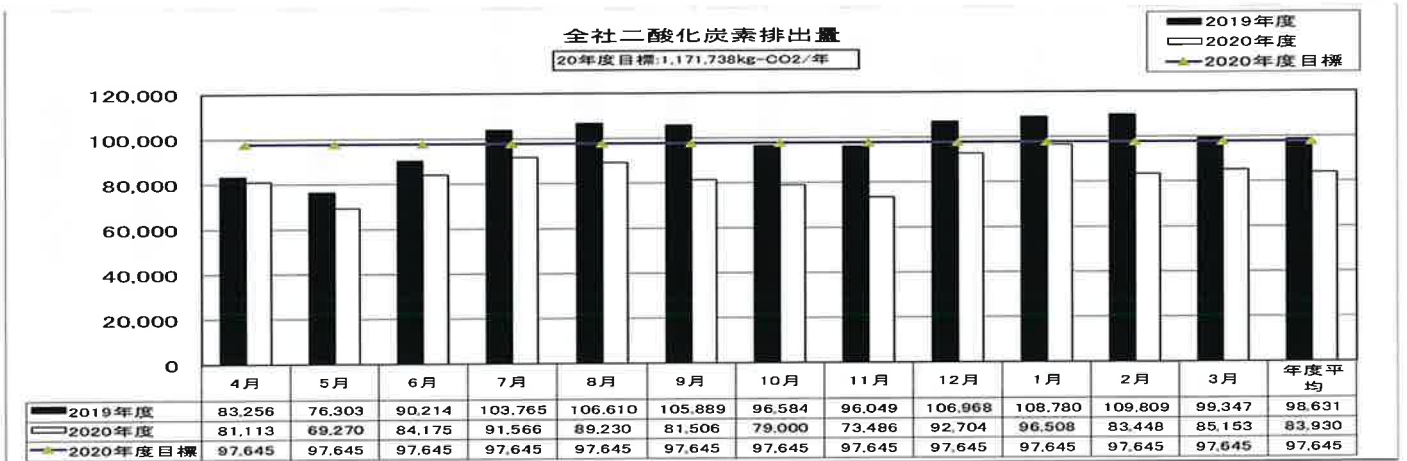


・二酸化炭素排出係数は過去分も含め九州電力の平成29年度の実排出係数(0.438kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用しております。

### 1. 二酸化炭素排出量の削減・・・目標達成

目標(1,171,738kg-CO<sub>2</sub>/年)

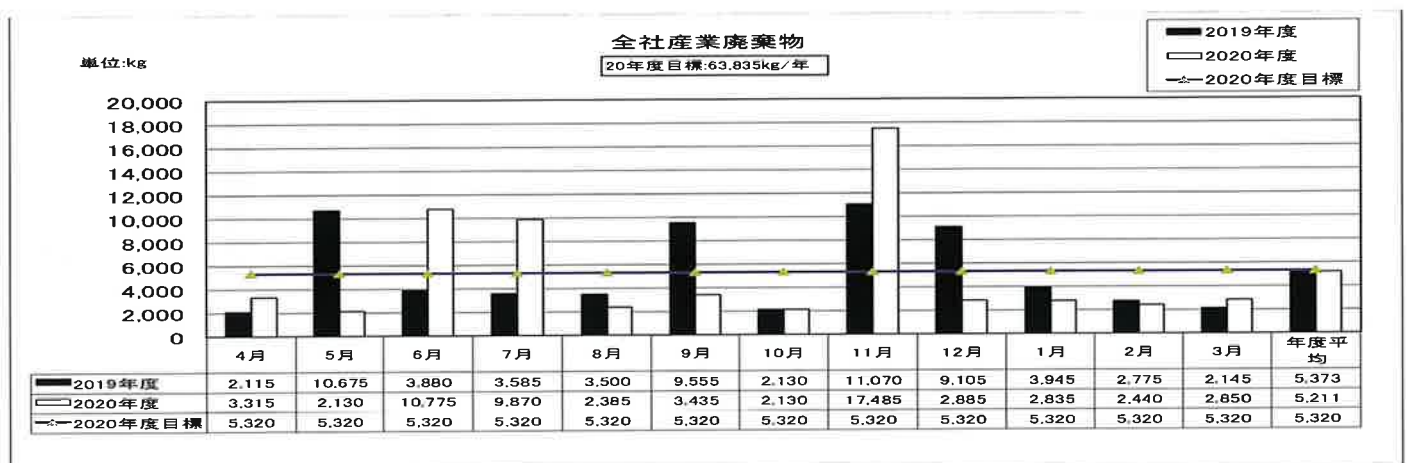
実績(1,007,159kg-CO<sub>2</sub>/年)



### 2. 廃棄物総排出量の削減・・・目標達成

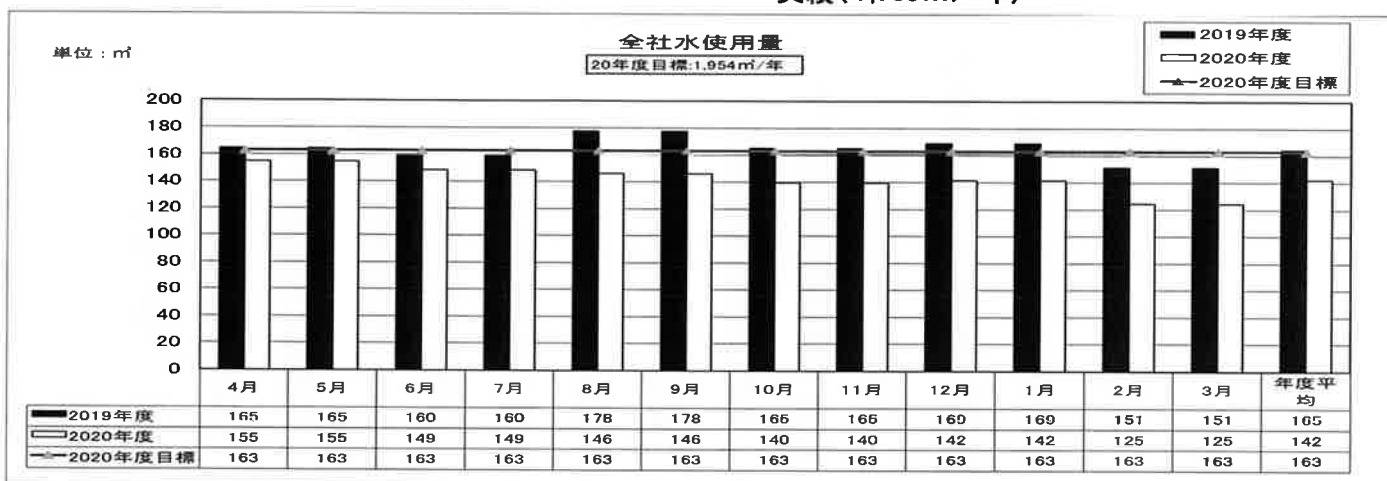
目標(63,835kg/年)

実績(62,535kg/年)



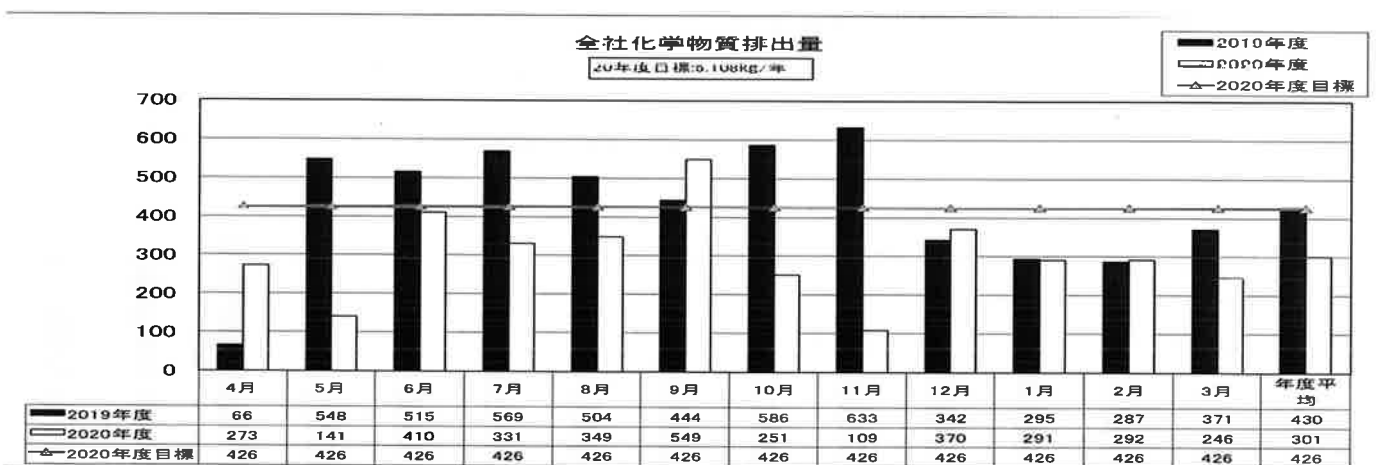
### 3. 総排水量の削減・・・目標達成

目標(1,954m<sup>3</sup>/年)  
実績(1,709m<sup>3</sup>/年)



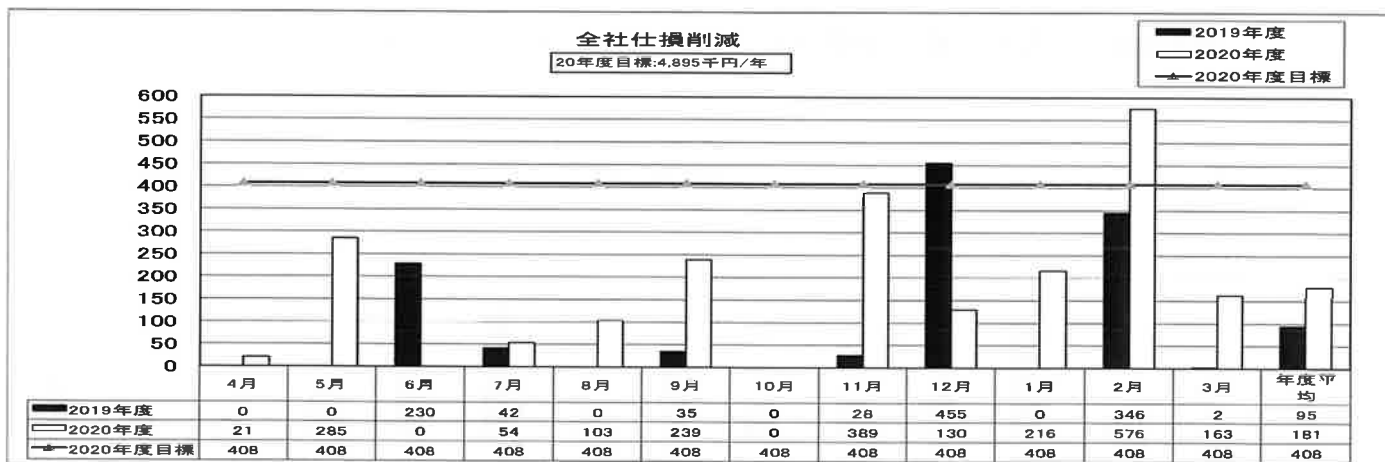
### 4. 化学物質排出量の削減・・・目標達成

目標(5,108kg/年)  
実績(3,612kg/年)



### 5. 製造時の仕損削減・・・目標達成

目標(4,895千円/年)  
実績(2,176千円/年)





## VI.環境経営活動の取組結果とその評価及び次年度の取組内容

2020年度については、IV項の環境活動を着実に実施しました。  
実績については次の通りです。(下表参照ください)

必須項目	負荷量	2019年度 実績	2020年度			
			目標(A)	実績(B)	(B)/(A) (%)	
年間売上高	(単位:百万円)	3,058 ※1		2,584		
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2/年)	1,183,574	1,171,738	1,007,159	86.0	
	原単位(kg-CO2/百万円)	387.0		389.8		
主要 項目	電力使用量	総量(kWh)	2,388,482	2,364,597	2,064,421	87.3
		原単位(kWh/百万円)	781.1		798.9	
	ガス使用量	総量(m3)	38,972	38,582	28,297	73.3
		原単位(l/百万円)	12.744		10.951	
	ガソリン使用量	総量(リットル)	3,125	3,094	1,966	63.5
		原単位(l/百万円)	1.022		0.761	
軽油使用量	総量(リットル)	2,314	2,291	2,219	96.9	
	原単位(l/百万円)	0.757		0.859		
廃棄物総排出量	総量(kg/年)	64,480	63,835	62,535	98.0	
	原単位(kg/百万円)	21.09		24.20		
総排水量	総量(m3/年)	1,974	1,954	1,709	87.5	
	原単位(m3/百万円)	0.646		0.661		
化学物質排出量 の削減	総量(kg/年)	5,160	5,108	3,612	70.7	
	原単位(kg/百万円)	1.687		1.398		
製造時の仕損削減	総量(千円/年)	1,138	4,895	2,176	44.5	

・二酸化炭素排出係数は過去分も含め九州電力の平成29年度の実排出係数(0.438kg-CO2/kWh)を使用しております。  
※1 新規に移管を受けた小形Σモータの受注は、通常の製品(材料費+工賃)とは違い、工賃のみの売上高となっていて材料は支給されているため、売上高を4倍として計算しています。

■今年度の取組内容及び評価、次年度の取組内容

必須事項	今年度の取組内容及び評価	達成状況 (実績/目標)	次年度の取組内容
二酸化炭素排出量の削減	・1-1から1-4の取組により、目標達成となった。	○ 86.0%	・1-1から1-4の取組を行い、二酸化炭素排出量を削減する。
1 1-1 電力使用量の削減	・工場、事務所のこまめな消灯の徹底を実施 ・エアコンフィルターの定期清掃の実施 ・老朽化した工場設置の冷蔵庫を、省エネタイプへ更新 上記の取組等により、電力使用量を削減でき、目標達成となった。	○ 87.3%	・空調の温度管理と空調フィルターの定期清掃、エア漏れの改善と予防、工場・事務所・厚生棟のこまめな消灯の徹底、省エネ設備等の更新により、電気使用量を削減する。
1-2 ガス使用量の削減	・効率的なまとめ焼頓の徹底、設備整備による燃費向上および仕事量減少に伴う焼鈍回数の減少により、目標達成となった。	○ 73.3%	・効率的なまとめ焼頓の徹底と設備の整備を継続し、ガス使用量を削減する。
1-3 ガソリン使用量の削減	・電気自動車の優先使用、エコドライブ推進により、ガソリン使用量が減少したため、目標達成となった。	○ 63.5%	・低燃費車の優先使用とエコドライブを継続し、ガソリン使用量を削減する。
1-4 軽油使用量の削減	・エコドライブの推進、効率的な配送により、軽油使用量が減少したため、目標達成となった。	○ 96.9%	・エコドライブと効率的な配送を継続し、軽油使用量を削減する。
2 産業廃棄物排出量の削減	・紙・缶・ペットボトルの分別収集が日常的に行われ、産業廃棄物排出量が減少したため、目標達成となった。	○ 98.0%	・紙・缶・ペットボトルの分別強化推進を継続し、産業廃棄物を削減する。
3 排水量の削減	・毎日の水道メーターのチェックによる、漏水箇所に対する速やかな対応、塗装ブース等への滴水警報ブザー設置により、水使用量が減少したため、目標達成となった。	○ 87.5%	・漏水管理(水道メーターの確認等)の継続と漏水箇所の速やかな修繕を行い、水使用量を削減する。
4 化学物質排出量の削減	・塗料の在庫引当てによる管理、洗浄液再利用により、化学物質排出量が減少したため、目標達成となった。	○ 70.7%	・在庫塗料使用による塗料の廃棄量削減や洗浄液の再利用を行い、化学物質を削減する。
5 製造時の仕損の削減	・社外クレームを発生させないため、チェックシート等の活用状況のパトロールを行い、目標達成となった。	○ 44.5%	・帳票類の有効活用とパトロール実施、仕損内容分析による再発防止の検討を実施し、製造時の仕損を削減する。

## Ⅶ. 環境活動の取組状況

### ■複合機の買い替え(省エネタイプ)



### ■工場内冷蔵庫の買い替え(省エネタイプ)



### ■環境保全活動(本社・工場周辺の清掃活動)



### ■機械装置の更新(一部のみ抜粋)



(マシニングセンタ)



(旋盤)



(産業用ロボット)

## Ⅷ. 環境関連法規等の遵守状況

当社の事業活動に関わる環境関連法規等について当社でチェックした結果、違反は過去3年間ありません。また、関係機関からも特に指摘はなく、訴訟についてもありません。

## Ⅸ. 代表者による全体の評価と見直し

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の為、受注の大幅な減少により大変厳しい年になりました。環境経営活動の目標達成状況については、売上高減少による臨時休業実施、仕事量の多い職場への応援などを行い、生産効率を落とさないようにしたほか、従業員一人一人の環境活動に対する意識向上で、すべてにおいて目標達成となりました。

全体の評価としては、環境経営システムは有効に機能しており、環境経営目標達成に向けた取組みが、適切に実施されていると判断しました。

2021年度の環境経営目標値は、2019年度の総量実績値より2%削減を目指すこととします。取組内容を都度見直し、全ての管理項目で目標を達成出来るように、社員一丸となって更なる活動定着を図り、環境に貢献できる企業として努めていきます。

八幡電機精工株式会社

代表取締役社長 菊 竹 浩 和